

ブランドが 企業競争力を高める

座談会



広瀬 義州氏
早稲田大学商学部教授



吉見 宏氏(司会)
北海道大学大学院経済学研究科助教授



河西 康之氏
経済産業省
前産業組織課課長補佐



岡本 大輔氏
慶應義塾大学商学部教授



植田 リサ氏
日本銀行 信用機構室

貨幣額による客観的な評価の完成

経済産業省は昨年7月「ブランド価値評価研究会」(委員長:広瀬義州早稲田大学教授)を立ち上げ、1年にわたる検討の成果を、去る6月24日報告書としてまとめた。

企業価値の源泉が従来の土地・建物等の有形資産(tangibles)から、ブランド等の無形資産(intangibles)にシフトしつつあり、こうしたインタングブルズをいかに評価・測定するかが積年の課題となっていた。報告書では、世界初となるブランド価値評価の客観的なモデルが提示された。

会計ビッグバンにより次から次へと「後追い」で、新会計諸基準を導入してきたわが国であるが、今度はわが国が世界に先駆けて発信することになる。

ここでは、ブランド価値評価研究会のメンバーの方々ならびに経済産業省の担当官にお越しいただき、ブランド価値評価をめぐる諸問題について忌憚なく語っていただいた。

なお、報告書の全文は経済産業省ホームページ(<http://www.meti.go.jp/>)よりダウンロードできる。